

第2回 総合コミュニケーション科学学会 総会

2023年5月13日(土)

総会議案

第1号議案:2022年度事業報告

第2号議案:2022年度決算報告

第3号議案:2022年度監査報告

第4号議案:年会費について(当面は半額とする件)

第5号議案:2023年度予算案

第6号議案:2023年度事業計画案

第1号議案:2022年度事業報告

I. 事業の概要

学会発足の初年度にあたる今年度は、理事会の定期的な開催と会員入会手続きの具体の策定など、学会の起動に必須の基本的な事業の実行に取り組んだ。

II. 事業の実施報告

1. 分科会の設置と活動

「Slack 上での学術 tweet」をテーマとする研究チームが分科会設置に向けて準備を開始した。

2. 研究セミナーの設置と活動

2022年度において、研究セミナーの設置提案は提出されなかった。

3. 談話会の運営

代表世話人を 饗庭絵里子（事業担当理事）が、世話人を 養老毅暁（事務局）が務める談話会が下記の要領で開催された。

=====

総合コミュニケーション科学学会 第1回談話会

日時： 2022年7月28日（木）18時～

会場： 電気通信大学附属図書館2階 Agora および Zoom

※ Zoom のミーティングルームは、日が近づきましたらご案内いたします。

会場定員： 10名程度

話題提供： 林 大樹 氏（一橋大学名誉教授、総合コミュニケーション科学学会会長）

テーマ： 総合コミュニケーション《思考》の特性を考える

=====

4. 総合コミュニケーション科学シンポジウムの開催

久野副会長を実行委員長とする設立記念シンポジウム実行委員会が設置され、企画・運営を担った。

開催概要は以下の通りである。

【事業名】 総合コミュニケーション科学学会 設立記念シンポジウム

【共催】 総合コミュニケーション科学学会

国立大学法人 電気通信大学 総合コミュニケーション科学推進室

【協賛】株式会社キャンパスクリエイト

国立大学法人 電気通信大学 産学官連携センター 事業協力会

【日時】2022年12月17日（土）13：30～17：30

【場所】電気通信大学 新C棟403教室 & オンライン

【プログラム】

◎ 13:30～ 開会挨拶

総合コミュニケーション科学学会 会長 林 大樹 氏

◎ 13:35～ 特別講演

電気通信大学長 田野 俊一 氏

「共創進化スマート社会と総合コミュニケーション科学の重要性」

◎ 14:05～ 基調講演

総合コミュニケーション科学 提唱者 梶谷 誠 氏

「この世は全てコミュニケーション～細胞から外交まで～」

《休憩》

◎ 15:15～ 話題提供・パネルディスカッション

・第一部 15:15～ 話題提供

一橋大学 名誉教授 林 大樹 氏

電気通信大学 教授 橋山 智訓 氏

導線設計研究所 代表 今江 崇 氏

電気通信大学 客員教授 久野 美和子 氏

・第二部 16:35～ パネルディスカッション

テーマ：「総合コミュニケーション科学の目指すところ」

モデレータ・コメンテータ：電気通信大学 教授 久野 雅樹 氏

パネリスト：梶谷 誠 氏、林 大樹 氏、橋山 智訓 氏、今江 崇 氏、久野 美和子 氏

◎ 17:25～ 閉会挨拶 設立記念シンポジウム実行委員長 久野 美和子 氏

【参加者】

申込者数 114名（内 会員14名）

当日の参加者数 66名（リアル参加16名 オンライン参加50名）

【運営体制】

当日、会場での機器・システム運営：橋山副会長&ニブン会員

当日、オンラインでの支援：養老会員

5.学会のホームページを開設する

岡崎理事が代表を務める広報委員会において、ホームページ（以下、HP と表記する）開設の準備作業を進めた。

1) 学会のHPを開設する

会員の養老氏に制作を依頼した。さくらインターネットのレンタルサーバー（スタンダード）を2022年11月に契約、ドメインも取得した。

なお、トップページなどHPの基本骨格や学会のロゴは完成し、2022年度末（23年3月末）には公開の予定だったが、諸々の理由により、公開は2023年度にずれ込むこととなった。

6. 研究発表の場の構築の準備を進める

会員の研究活動を支援するための研究発表の場として、第1回年次大会を開催した。

開催概要は以下の通りである。

同事業の企画・運営は橋山副会長を委員長とする実行委員会が担った。

【事業名】総合コミュニケーション科学学会 第1回年次大会

【会期】2023年3月25日(土)

【会場】電気通信大学 新C棟 103室

【プログラム】

9:55～10:00 オープニング 橋山実行委員長

10:00～11:40 発表1～3（奥浩昭・安部博文・嶋田浩一）

11:40～13:00 休憩

13:00～14:40 発表4～6（伊藤正実・牧昌次郎・今江崇）

14:40～14:50 休憩

14:50～15:55 発表7～8（石川晴雄・廣瀬弥生）

16:00～17:00 基調講演（林大樹）

17:00 クロージング 林会長

【予稿集】50部作成した。

【参加者】申込：23名（内訳：正会員19名、非会員2名、学生2名）

【実行委員会】

実行委員長：橋山智訓

実行委員：伊藤正実、ウィクラマナヤカ ニブン ラビンドゥ、奥浩昭、久野美和子、養老毅暁

7. 新会員勧誘促進の活動を開始する

会員拡大担当の嶋田理事を中心に、以下の事業に取り組んだ。

1) 会員勧誘活動の一環としてパンフレットを作成する。

2022年度については、先ずホームページ（以下、HPと表記する）の作成を第一優先と考えたため、広報担当と事務局により進められていた『HP開設ワーキンググループ』に参加した。

また加えて、事務局ではロゴの作成を検討していたため、そのロゴの完成をもってパンフレット作製に反映させることとした。

2) 理事会の下に、新規会員勧誘 WG を設けて作業する。

HP 開設の準備が整いつつあるタイミングで、事務局と WG の設置についての打ち合わせを行った。

その際、広報担当理事にもご出席いただき、先ずはこの三者をもって『新規会員勧誘 WG』と位置付けることを取り決めた。

8. その他学会の運営に必要な事業

1) 定期総会

2022 年 3 月 25 日に設立総会を開催した。

2) 理事会

2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの間、2022 年 8 月を除き、月 1 回、計 11 回理事会を開催した。

総合コミュニケーション科学学会

第2号議案：2022年度 決算報告（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

2022年10月25日

2023年5月3日

単位：円

単位：円

科 目	予 算	備 考	科 目	決 算	備 考
収 入			収 入		
年会費	150,000	正会員 30名	年会費	99,000	正会員19名×5,000円 学生会員2名×2,000円
入会金	150,000	新規正会員 30名	入会金	97,000	正会員19名×5,000円 学生会員2名×1,000円
本部主催行事	50,000	年次大会参加費等	本部主催行事	44,000	正会員14名×2,000円、仮入会5名×2,000円、 非会員2名×3,000円
雑収入	0		雑収入	5,000	
計	350,000		計	245,000	
支 出			支 出		
事業費			事業費		
会議費	20,000	シンポジウム等会場費等	シンポジウム会場費	12,870	
謝金	20,000	講演、学生アルバイト等	謝金	0	
広報費	200,000	ホームページ開設準備費他	広報費	0	
印刷費	20,000	パンフレット、ニュースレター他	印刷費	0	
本部主催行事	50,000	年次大会の開催にかかる費用	本部主催行事	50,837	年次大会の開催にかかった費用（会場使用料13,035 予稿集（ACCEA：本文モノクロ印刷、50部）35,288 名札ケース（モニター）1,969 名札シート（電 通大生協）545
管理費			管理費		
消耗品費	10,000		消耗品費	0	
通信運搬費	10,000		通信運搬費	0	
雑費	10,000		雑費	0	
予備費	10,000		予備費	0	
次期繰越金	0		次期繰越金	181,293	
計	350,000		計	245,000	

第3号議案：2022年度監査報告


会計監査報告書

総合コミュニケーション科学学会
会長 林 大樹 様

総合コミュニケーション科学学会(2022年4月1日～2023年3月31日)の会計の収支決算書及び諸帳簿を監査した結果、正確かつ適正に処理されていることを確認いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

2023年5月3日

監事

伊藤正実 

第 4 号議案:年会費について(当面は半額とする件)

学会発足の初年度にあたる 2022 年度は、学会の起動に必須の基本的な事業の立ち上げに取り組んだが、そのための組織体制づくりに時間を要し、入会手続きの準備が遅れた。そのため、会費の徴収については、細則第 7 条 2 項を適用し、半期割で会費を徴することとした。

2023 年度においても、会員拡大の取り組みの重要性などを鑑みて、当面は年会費を半額とする。

第5号議案：2023年度予算案（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

単位：円

単位：円

科 目	2022年度決算	備 考	科 目	2023年度予算	備 考
収 入			収 入		
年会費	99,000	正会員19名×5,000円 学生会員2名×2,000円	前期繰越金	181,293	
入会金	97,000	正会員19名×5,000円 学生会員2名×1,000円	年会費	151,000	正会員29名×5,000円 学生会員3名×2,000円
本部主催行事	44,000	正会員14名×2,000円、仮入会5名×2,000円、非会員2名×3,000円	入会金	40,000	新規正会員 8名×5,000円
雑収入	5,000		本部主催行事	50,000	年次大会参加費等
計	245,000		雑収入	0	
支 出			支 出		
事業費			収入計	422,293	
シンポジウム会場費	12,870		事業費		
謝金	0		会議費	20,000	シンポジウム等会場費等
広報費	0		謝金	50,000	講演、学生アルバイト等
印刷費	0		広報費	206,278	ホームページ開設及び維持管理費用 (レンタルサーバー 6,366円、ドメイン認証更新費用 990円、HP制作費 138,922円、HP維持管理費用 60,000円)
本部主催行事	50,837	年次大会の開催にかかった費用（会場使用料13,035円、予稿集（ACCEA：本文モノクロ印刷、50部）35,288円、名札ケース（モノタロー）1,969円、名札シート（電通大生協）545円）	印刷費	50,000	パンフレット（会員拡大用）
管理費			本部主催行事	50,000	年次大会の開催にかかる費用
消耗品費	0		管理費		
通信運搬費	0		消耗品費	10,000	
雑費	0		通信運搬費	10,000	
予備費	0		雑費	10,000	
次期繰越金	181,293		予備費	10,000	
計	245,000		支出計	416,278	
			次期繰越金	6,015	

第 6 号議案:2023 年度事業計画(案)

I. 事業計画の概要

学会発足して2年目となる今年度は、理事間の連携協力関係を強化し、事務局機能を理事会全体で分担する体制を確立する。学会ホームページの安定的運用を実現し、分科会・研究セミナー・談話会の運営を軌道に乗せる。前年度に引き続き、総合コミュニケーション科学シンポジウム及び会員の研究活動を支援する研究発表の場としての年次大会を企画実行する。このような事業に着実に取り組み、本学会の魅力を高めることで、会員拡大の事業を後押しする。

II. 事業の実施計画

1. 分科会の設置と活動

「Slack 上での学術 tweet」をテーマとする研究チームが設置申請した分科会を承認し、その活動を支援する。

3名の理事によって設置申請された分科会の活動計画は設置申請書によれば、以下の通りである。

「本分科会では学術振興を目的とし、Slack 上で学術誌掲載内容に対する tweet を行う。その際分野を限定せず、一次情報（原著）にリンクが可能な、人文科学・社会科学・自然科学における全ての学術誌に掲載された内容をリソースとする。分科会幹事または会員が、学会員の大多数が興味を持ちそうな学術誌掲載内容を原文のまま、月1回以上のペースで Slack の「分科会」スレッド上に PDF 形式で貼り、ごく短い要約や意見を添える。出典は巻号やページを明記し、これを活動証明（文献リスト）とする。それをもとに、会員間で、自由に意見交換（tweet）をする。どのようなテーマや論文においてリツイートが多いかを分析する。本形式で盛り上がるのかどうかを見極め、適宜やり方を変えて最適化することもありうる。形骸化した場合には廃止する。」

2. 研究セミナーの設置と活動

会員に限定して参加者を募り、会員の自由な発想に基づき、総合コミュニケーション科学に関する調査・研究に資する幅広いテーマについて議論し、その結果を報告書に取りまとめ、理事会に報告する「研究セミナー」の設置を勧奨し、活動を支援する。

3. 談話会の運営

会員のほか、非会員も参加でき、総合コミュニケーション科学に関する自由な意見交換・議論の場として設置され、特に、報告や公開の義務はない「談話会」を常設する。

談話会における自由な意見交換・議論が活性化し、総合コミュニケーション科学に関する調査・研究への貢献大と考えられる場合、「研究セミナー」への移行も選択肢の一つとなる。

4. 総合コミュニケーション科学シンポジウム

第二回シンポジウム開催を目指し、以下の内容について取り組む。

○8月頃までに、理事会において実行委員長を決定

○有志等による実行委員会の設立

○実行委員会を開催し、具体的なシンポジウム内容の企画、プログラム作成、趣旨・目的の確認、講演者等の募集・決定及びロードマップの作成

○9月以降において、共催・後援機関等への依頼、参加者募集、講演者から原稿集め、当日に向けての資料作成、開催場所、当日の役割分担等、ロジの決定

5. 学会ホームページ

1) ホームページの運用を軌道に乗せる

ホームページの公開後に、広報担当理事から提供されるフォーマットに基づいて、全理事は、それぞれ担当する学会活動の開催案内や実施結果などをホームページに随時アップする。

また、新会員勧誘促進の活動において、ホームページとコーディネートされたパンフレットの作成が目指されていることから、会員拡大担当理事と連携協力するが、それにとどまらず、ホームページそのものが会員拡大に活用されることが必須であり、会員拡大担当理事との緊密な連携協力を図る。

2) ホームページの維持管理を外部に発注し、魅力あるサイトの実現を目指す。

6. 研究発表の場の構築

会員の研究発表の場の構築を進めるため、第2回年次大会を開催する。

理事会において、開催時期と実行委員長を決め、大会の形式などは実行委員会へ一任する。

7. 新会員勧誘促進の活動

1) パンフレットの作成と配布・配信

学会ホームページとコーディネートされたパンフレットを作成する。その紙面においては、公式のロゴを使用する。

2) 会員拡大のための具体的方針の設定

新規会員勧誘WGにおいて具体的方針を設定し、ホームページ及びパンフレットを活用して、担当以外の理事も協力して、新会員勧誘を進める。

本学会が実施した各種企画の「オンデマンド配信」や、各理事が学会ホームページ上でメッセージをリレーしていく企画など魅力的な企画に取り組む。